

学校保健

平成29年 3 月

No. 323

(公財) 日本学校保健会ホームページアドレス
http://www.hokenkai.or.jp/



JAPANESE SOCIETY
OF
SCHOOL HEALTH

(公財) 日本学校保健会

継続的に発展・普及した実践を評価

平成 28 年度全国健康づくり推進学校表彰式を開催



最優秀校受賞者の皆様



最優秀校の実践発表

日本学校保健会では1月14日(土)、日本医師会館(東京都文京区)において平成28年度全国健康づくり推進学校表彰式及び事業報告会を開催、約300名の方にご参加いただき、最優秀校の実践発表を行いました。(関連記事2～3ページ)

主な誌面

平成28年度全国健康づくり推進学校表彰
最優秀校紹介………2
特集 子どもメディアV
学校における情報モラル教育………4
全国健康づくり推進学校表彰校の実践⑤
山梨大学教育学部附属特別支援学校………6
6
7

シリーズ①「健康教育をささえる」
学校薬剤師の現場から………8
平成28年度学校健康づくり啓発ポスターコンクール
ポスター採用審査最終選考作品………9
盛岡県立盛岡高等学校健康づくり推進委員会
学校における水プールの保健衛生管理改訂………12
13
11
10

平成 28 年度 学校健康づくり啓発ポスターコンクール

— ポスター採用作品 —

日本学校保健会の平成28年度学校健康づくり啓発ポスターコンクールでは全国から総数1,429点に及ぶご応募をいただき、ありがとうございました。本会の学校健康づくり啓発委員会(衛藤隆委員長)での審査の結果、各部門のポスター採用作品が決まりました。各部門の啓発ポスターは、全国の学校保健会等を通じて各学校へ配布します。ご活用ください。(関連記事10ページ)

★小学生部門(応募数684点)



群馬県沼田市立薄根小学校
2年 岡田 拓真 さん

★中学生部門(応募数464点)



南山高等・中学校女子部
2年 菅野 ほの香 さん

★高校生部門(応募数281点)



香川県立高松東高等学校
2年 岡島 真怜 さん

回覧

校 長	教 頭	保健主事	養護教諭	栄養士・学校薬剤師	PTA会長	学校医	学校歯科医	学校薬剤師

【お知らせ】「学校保健」は年6回(奇数月)の発行です。学校保健委員会の参考に学校三師の方々へもご回覧ください。

平成28年度

公益財団法人日本学校保健会

全国健康づくり推進学校表彰

— 最優秀校紹介 —

「真剣・集中」の学びの姿と自信を育てる
地域に根ざした学校づくり

～学校、家庭、地域が総がかりで行う
豊かな健康教育の創造～

埼玉県幸手市立八代小学校



『「真剣・集中」の学びの姿と自信を育てる地域に根ざした学校』をスローガンに、朝の会で行う「腰骨タイム」や、「真剣・集中」の朝マラソン等、その活動を教育課程に位置付け行っています。学校・家庭・地域の共同指導目標「8つの種」を推進し、基本的な生活習慣を身に付けることや、地域の教育力を生かした教科横断的健康教育等、三者総掛かりで行う教育を推進しています。

震災を生き抜く
すこやかな城東っ子の育成

～いたわり はげましあい
きずなの力を育む 健康づくり～

熊本市立城東小学校



熊本地震は、辛い体験ではありました。しかし、本校が長年積み上げてきた健康づくりが基盤となり、震災後の取組に生かすことができました。

「特別な事を頑張るのではなく、当たり前の事を積み重ねつつ、児童の心身の状態に応じて取組に少し工夫を加えて継続させる。」これが、児童の確かな育ちに繋がると 생각합니다。

保健・体育・食育が調和し
地域と育む彩り豊かで安心安全な学校づくり
～チームで取り組む健康教育～

埼玉県上尾市立東小学校



「チーム東小 和・輪・話」の精神で、保健・体育・食育がバランスよく調和し、学校三師会はもとより、学校・家庭・地域・専門機関が連携して安心安全な学校づくりを推進しています。保健学習の充実を図るため、専門職と連携して授業力向上を目指しています。

生涯にわたって心身の健康の保持増進に
努めようとする生徒の育成

～学校・家庭・関係機関が連携し、歯肉炎の
予防に視点をあてた歯と口腔の健康づくり～

高崎市立豊岡中学校



学校保健委員会を中核として、校内の様々な組織が連携し、すべての教育活動と連動させながら、全校体制で健康教育に取り組んでいます。「自分の健康は自分で守る生徒の育成」を目標に実践を積み重ねています。

「土」に学び・「食」を楽しむ
畑農業体験
～地域の農家とのつながりから～

大阪府立北かわち皐が丘高等学校



地域とつながる畑農業体験により、土から作物が栽培される過程を知り、体験し、食を楽しむ活動を継続してきました。食を通じて健康づくりを学び、魅力と知識を広め、食の意識の向上に努めるとともに、人とのつながりの大切さ、思いやりと豊かな人間性を育んできました。

たくましく生きていく力を育む健康づくり
～自然環境と近隣施設を活用した
特徴的な取組～

愛知県立春日台特別支援学校



本校の教育目標である「家庭や社会の成員として生活できる人間の育成」を進めるなかで、健康づくりが重要な基盤であると考え、愛知県心身障害者コロニー内の各施設や地域との連携を図るとともに、豊かな自然環境を活用して特色のある様々な取組を実践し、たくましく生きていく力を高められるように努めています。

平成 28 年度の審査を終えて

審査委員会 委員長 村田 光範



平成27年度から従来の「健康教育推進学校表彰事業」という名称を「全国健康づくり推進学校表彰事業」と変更して、この事業の目的をより明確にすることにした。変更の理由は、「健康教育を推進すること」はよく考えてみると「健康づくり」の1つの手段だといえるからである。全国を冠したのは、この事業が全国展開を目指しているからである。昨年度は、事業名の変更は行ったが、応募いただく書類の内容や審査体制については従来のものと同じであった。今年度はすべての体制を新しくしてこの事業を行った。また、この表彰事業の実務を担当する小委員会委員にも若干の移動があり、今年度は小児科医師の委員が新たに2名加わり、小委員会は昨年度までの10名から12名に増えて活動をしている。

全国健康づくり推進学校表彰事業としたことの重点は、健康づくり推進活動が学校から発信する情報が地域に拡がりをみせ、また地域から発信する情報が学校に適切に取り入れられて、学校と地域が一体となって児童生徒の健康づくりと家庭地域の健康づくりとが協同して行われることであり、そしてこれらの健康づくりが年々発展する様子を確認することである。

今年度は都道府県と政令指定都市の学校保健会か

ら、小学校69校、中学校21校、高等学校5校、特別支援学校2校、全体として97校の推薦があった。小委員会としてはこれらの推薦校の審査に当たって、上記の共通理解の下に慎重、かつ厳正な審査に心がけ、この中から最優秀校6校(小学校3校、中学校1校、高等学校1校、特別支援学校1校)、優秀校10校(小学校6校、中学校2校、高等学校1校、特別支援学校1校)、および優良校81校を決めた。なお、優秀校の中から小学校1校が特別協賛社賞になった。これらの学校については別に記載があるので詳細は省略するが、とくに最優秀校にあっては学校独自の特色ある健康づくり活動に加えて、地域との連携並びにより高いところへ進もうとする努力は、表彰式後の活動実践報告にもみられるように、深く敬意を表する次第である。

今年度から表彰式を土曜日に行うことにしたのは、児童生徒をはじめとする学校関係者の皆さんができるだけ多く表彰式に参加していただけるようにとの考えからである。このことが好評であったと感じているので、来年度からもこの表彰式を1月から2月にかけての土曜日に行うように準備する予定である。

特集 子どもとメディアV

(全5回予定)

学校における情報モラル教育 — 子供たちの心身の健康を守るために —

全国養護教諭連絡協議会 副会長

大阪市立高倉中学校 指導養護教諭 岡本 幹子

1 はじめに

現代社会の急激な変化は、子供たちの生活様式や心身の健康に様々な影響を及ぼしている。中でも、パソコン、スマートフォン（スマホ）等の普及は凄まじく、それに伴い、ゲーム、SNS等、インターネットの利用の機会が拡大し、年々、低年齢化するとともに、ネット上の深刻な問題が顕在化してきている。そのため学校では、子供たちを電子メディアの被害から守るために、情報モラル教育やメディアリテラシー教育が急速に進められている。

特に中学校は、自分の携帯やスマホを持つ率が高まる一方で、ネット被害についての知識が不足し、LINE上のいじめ、スマホ依存等に陥りやすい時期といえる。保健室においても、そのような悩みやトラブル等に対応することが増えており、養護教諭は、子供の言葉や様子から問題に気付き、解決に向かうための支援ができるよう努める必要があると考える。

2 大阪市の実態調査より — 中2の実態 —

大阪市教育委員会の「平成27年度パソコンや携帯電話・スマートフォン等に関するアンケート（平成28年1月実施・回答数：小学校6年17,677、中学校2年16,603、高校2年4,412）」によると、中学校2年生でインターネットができる環境にある生徒は85%であり、自分の携帯・スマホの所持率は80%であった。その用途は、オンラインゲームが63%、SNSは70%であり、ブログの公開、書き込みは12%程度であるものの、動画公開、裏サイト書き込み、出会い系書き込み等も0ではない実態が明らかとなっている。さらに、ネット上で嫌がらせを受けた経験のあ

る生徒は5%であり、その内容は「メールやブログに悪口を書き込まれた」が50%を超えている。そのことについての相談相手は60%が友だちであり、家族は40%、学校の先生は15%、警察が5%、そして相談していない場合が44%もあることから、今後さらに問題が拡大化、そして深刻化していくことが考えられる。

3 本校の実態より

平成26年度の「生活健康調査（平成26年9月実施・回答数503）」では、自分の携帯・スマホの所持率は75%であり、画面を見る時間は、一日平均2時間未満と答えた生徒が約42%、2～5時間は40%、5時間以上が18%もあった。個別のインタビューでは「そのために遅くまで起きている」「食事や勉強等をしながら画面を見ている」「布団に持ち込む」という返答があり、子供たちの睡眠をはじめとする生活習慣への悪影響は想像以上であると実感した。

このような中、LINEのやり取りに傷つき、欠席したり不登校になったりする事例や、悪口の書き込み、他人のアドレスの乗っ取り、動画の流出等の問題事象が発生し、双方からの聞き取り、関係者によるケース会議、保護者連絡、家庭訪問等を重ねることによって、友人関係の修復や学校生活への復帰に取り組んできた。今後の対策としては、組織的な「情報モラル教育」並びに「生活習慣に関する保健指導」を早急に実施するとともに、これまで継続してきた「命を大切に教育」をさらに充実させ、一人一人が大切な存在であるという自尊心を高め、豊かに生きる力を育てる取組が益々重要であると考えます。

4 子供たちをメディアの被害から守る取組例

子供とメディアの問題は、現代的な健康課題の一つとして、その課題解決のために多くの学校が発達段階に応じた取組を推進している。その一部を紹介する。

(1) 情報モラル教育の実践

① 企業との連携

- ・『ケータイ安全教室』 ケータイ、スマホを使う上でのルールやマナーを学び、被害と加害について理解を深めた。

② 保護者・地域との協働



- ・『地域学校保健委員会』 小中が連携して、「子供たちのメディア・ネット状況と心身の状態」を調査した結果をもとに、学校三師、PTA、教職員が、よりよい対応等についてグループ協議を行った。
- ・『学校保健委員会』 子供たちのメディアに関する実態調査の結果から、生活習慣の見直しをめざして「健やかカード」を作成し、実施した。
- ・『PTA 総会・学年ごとの懇談会』 SNSと睡眠時間、集中力等との関係を示したデータをもとに、家庭でのスマホの使い方等について協力を求めた。
- ・『アウトメディアプロジェクト』 アウトメディアチャレンジ（ノーテレビ・ノーゲーム）週間を設け、「豊かな時間、心、つながり」のために、学校・家庭・地域が連携し協力して取り組んだ。

(2) 人権学習『友だちの輪を広げ、深めよう』

＜自尊心の向上をめざす＞

- ・ 自分を知るためのエゴグラムチェック
- ・ プラスの関わり（言葉・しぐさ・タッチ）とマイナスの関わりを考えた。
- ・ 「ほめほめ言葉」「ありがとうメッセージ」を伝えあった。

(3) 性に関する指導『あなたならどうする？』

＜コミュニケーション力を高める＞

- ・ 交際に関するトラブルについてグループワークを行った。
- ・ 「何が原因か」「どうすれば仲直りできるか」について意見を出し合い、まとめて発表した。（意見を尊重する）



5 保健室では

先日も「教室に行くのが嫌だ」と泣きながら女子生徒が来室した。LINEで嫌な言葉を見つけたらしい。なぜLINEにのめりこむのか、時間をつぎ込むのか、既読にこだわるのかと思う時、子供たちの満たされない心があると感じる。そして、IT機器に疎い私の元にもこうして相談に訪れる子供たちがいる。シリーズⅣの兵庫県立大学准教授 竹内和雄先生は、「スマホの問題は心の問題」さらに「つながるために少しは知ろう」と述べられている。私は、この現代的な課題について一層研鑽し、「いつでも話を聞くよ。あなたと相談しながら進めていくから安心して」と子供の心に寄り添いつつも、事象に対応するための体制づくりが必要であると考えている。

全国健康づくり推進学校表彰校の実践⑤

自立に向け、たくましい心と体をつくり、 生き生きと生活できる児童生徒の育成

平成 27 年度最優秀校 山梨大学教育学部附属特別支援学校

1 学校紹介

本校は知的障害を対象とした特別支援学校である。南東に富士山、北西に八ヶ岳を望む、甲府盆地のほぼ中央に位置し、甲府市の城北地域の自然に恵まれた山梨大学甲府キャンパス内にあり、全校児童生徒が明るくのびのびと学校生活を送っている。

2 健康づくりのあり方

小学部、中学部、高等部と一貫した教育を行うことで、段階的、発展的にその個性や能力の可能性を見極め、将来の自立に向けた健康づくりに取り組んでいる。さらに健康づくりの習慣が楽しみながら体験を通して身に付くように、家庭と連携して丁寧に指導を行っている。そのために、基本的な生活習慣や運動習慣を身に付け、自主的に健康管理できる児童生徒の育成に努めている。

3 具体的な健康づくりの取り組み

(1) 衛生習慣についての取り組み

望ましい衛生習慣の形成を目指して、毎日の生活の流れに沿って、それぞれの児童生徒の特性に合った指導を、実際の状況下で発展的に繰り返し行っている。

小学部は4月の定期健康診断の事前指導として「お医者さんとなかよし」の時間を設けている。それぞれが健診への見通しを持ち、スムーズな受診を促すと共に、お医者さんへの恐怖や、病院受診への不安を少しでも軽減させ、病気の予防や健康増進へつながることを目的としている。教師が各科の医師に扮し、実際の器具なども使って、それぞれの部位を診ていく。児童は、順番を待つことから、正しい部位を見せること、挨拶をすることなどを体験しながら学習している。



小学部「お医者さんとなかよし」



中学部 歯科衛生士による歯みがき指導

中学部では、毎日の個別の歯みがき指導と合わせ、生活単元学習で、学年毎に歯みがきの大切さ、一人一人にあった歯みがきの方法を指導している。また、各学級担任と、養護教諭や歯科衛生士とが連携してカラーテスターを使って、磨き残しのない歯みがきの定着を目指している。

高等部では生活単元学習で、「性」「清」「生」の三つの「せい」に関連づけた単元として「せいの学習」の時間を設けている。「望ましいかわり方」の授業では、現場実習の直前に行うことで社会生活を意識させ、あいさつの方法などが周囲の人に与える印象について考える機会を持ち、



高等部「望ましいかわり方」

よりよく人と関わる力を養っている。

(2) 朝の体育の取り組み

運動に親しむ態度や習慣を身に付け、自主的な健康管理ができる力を養ったり心身の解放と情緒の安定を図ったりするため、各教科等を合わせた指導として「朝の体育」の指導をしている。毎日同じ時間帯に体を動かすことで、体全体を覚醒させるとともに心が安定し、気持ちよく一日の活動をスタートさせることができる。また、苦手意識を克服しながら体力や運動能力を向上することができるように、小学部、中学部、高等部と段階的に指導を行っている。



小学部



中学部



高等部

(3) 食に関する取り組み

「食に関する指導」については教育課程全体から食に関する指導計画を作成し、給食の時間だけではなく、各教科等を合わせた指導・教科別の指導などに、作物を育てる活動、作物を調理して食べる活動など体験活動を取り入れている。



小学部 野菜作り



中学部 調理



高等部 米作り・稲刈り

児童生徒の食習慣の実態を把握し、学校と家庭の連携による食に関する指導の充実を図るため、毎年各学部1年生の家庭を対象に「食生活調査」を行っている。さらに、保護者を対象とした給食試食会および保護者懇談、家庭訪問の機会には、学級担任だけでなく養護教諭、栄養教諭と食生活について話し合う時間を設け、保護者の意識を高めている。



栄養教諭が給食中の児童の様子を見てまわり、栄養指導や食べ方をアドバイス



給食集会

給食時には栄養教諭が各教室を訪れ、実際の食材を見たり、触れたりするなどの時間をつくり、いろいろな食材に関心を持つような工夫を行っている。また、年1回給食週間を設定し全校児童生徒が食について学習する。給食週間中は日本各地の特徴的な郷土料理に親しめる献立として、各学部では栄養教諭と協力して給食集会を行う。

4 成 果

衛生習慣に関する取り組みでは、日常生活で習慣化することを目指した授業を展開し、それに関わる言葉がけを授業後も繰り返し行い、方法を図とオノマトペを使って掲示することで、手洗いや歯みがきの習慣を定着させることができた。また、児童生徒一人一人の発達の様子を的確に捉え、成長過程に合った保健指導をすることで、正しい知識や技術が自分のものとなり、衛生習慣が定着し、自立を促すことができた。

朝の体育の取り組みでは、発達段階に応じた、そして個人の能力にあった運動を計画的に取り入れることで体の動作をスムーズにしたり、柔軟性を身に付けたりすることができた。体を大きく動かすことで心が解放され、情緒の安定につながり、一日の生活を落ち着いて過ごせるようになった。また、毎日続けることで、運動することの心地よさを体感し、体を動かすことが生活の中で恒常的になった。

食に関する取り組みでは、体験活動を取り入れ、実際に野菜などの食物を栽培し、食の生産から消費に至るまで(育てる・調理する・食べること)を経験することにより、食生活が自然の恩恵の上に成り立っていることや、様々な人々の活動に支えられていることを知り、感謝の気持ちを育てることができた。毎日の給食指導の中では、ペースが早く咀嚼が苦手な児童生徒には、おかずをそれぞれ分けて、別の皿に取るなどし、よく噛んで食べることを根気よく指導したことで、次第に噛む回数が増えるようになった。苦手なものを食べられない児童生徒には、一口・ひとかけらから挑戦していき、偏食を改善させることができた。また、栄養教諭が給食中に学級を訪れて言葉をかけたり、食に関する学習に加わったりすることにより、栄養教諭の専門性を生かした食育に取り組むことができた。

5 今後に向けて

一人一人の児童生徒の自立に向けて、学校と家庭の連携をいっそう深め、健康習慣の定着に取り組んでいきたい。基本的な生活習慣を身につけるために保護者や医療機関、福祉施設等各関係機関との連携を充実させていきたい。今後も引き続き年間指導計画の見直しを図り、教職員研修や学校保健委員会などの保健行事を充実させていきたい。また、養護教諭や栄養教諭の専門性を生かした授業を計画的に進めていきたい。



くすりと、もっと仲良くなれる。

Daiichi Sankyo

くすりミュージアムのご案内

- 開館時間／午前10時～午後6時（入館は、閉館30分前迄）
- 休 館 日／月曜、年末年始 ※月曜が祝日・振替休日の場合は開館、翌日休館
- 入 館 料／無料
- ホームページ／<http://kusuri-museum.com>
- 問合せ先／Tel：03-6225-1133
- e-mail／kusuri.museum@daiichisankyo.co.jp



東京都中央区日本橋本町3-5-1

・地下鉄銀座線・半蔵門線「三越前駅」A10出口 徒歩2分 ・JR総武線快速「新日本橋駅」出入口5 徒歩1分

シリーズ 61

「健康教育をささえる」 ～学校薬剤師の現場から～

環境衛生を考える

公益社団法人日本薬剤師会 常務理事 村松 章伊

今から約2億3,000年前、地球上で食物連鎖の頂点に立ちながら6,500年程前に突然姿を消した恐竜、その絶滅の原因については、これまでもいろいろな説が発表されてきましたし、今後も新たな説が発表されるかもしれません。

これまでに地球上には少なくとも4回あったといわれる大規模氷河期に絶滅したのではないかとという氷河説は以前から言われています。近年言われているのが隕石説です。メキシコのユカタン半島には約6,500万年前に小惑星の衝突によってできた直径160キロメートルにも及ぶ巨大なクレーターがあります。隕石が地球に衝突する際の熱波と衝突による衝撃により発生する巨大地震や巨大津波と爆風、さらに衝突による衝撃によって発生する岩屑等が上空を覆い尽くし、地球上空を浮遊し続けることで太陽光を遮蔽し、長期間太陽光が当たらなくなり、植物は光合成ができなくなって、繁殖できなくなり枯れてしまいます。その結果、草食動物たちは餌がなくなり生命維持が不可能になります。さらに、それら草食動物を餌としていた肉食動物も同様の理由で死滅していき、恐竜を含む大型爬虫類をはじめとする多くの生物が絶滅したのではないかと、という説が白亜紀の恐竜絶滅の隕石説です。

生物が活動するにはそれぞれの生物に適した環境があります。環境が生物の生存に適さないほど厳しいものであれば生命を維持していくのは困難になり、絶滅してしまうでしょうが、そこまで極端に厳しくない環境であれば生存は可能でしょう。しかし、その生物が本来もっている機能を十分発揮して活発な活動を維持していくことは難しいでしょう。

このように一見何の障害もないように見え、影響がないように思えるような障害となる環境の変化こそ、私たちにはとても大きな問題となる場合があります。

現在、環境問題は地球規模で大きな問題となっています。二酸化炭素濃度上昇による地球温暖化、エルニーニョ現象やラニーニャ現象がもたらす海流の変化による猛暑、冷夏や超大型台風の発生、またフロン等によるオゾン層破壊の結果、有害な紫外線の増加による皮膚がんの発症増加など、環

境変化による日常生活への影響は計り知れないものがあります。

二酸化炭素は炭素を含有する物質を燃焼することで発生します。現在私たちが近代的で快適な生活を送るために欠かすことのできない電気は水力発電、風力発電、太陽光発電、地熱発電や原子力発電は別として、まだまだ多くを火力発電でまかなっているため、大量の二酸化炭素を発生させています。最近では風力発電や太陽光発電の施設が増え、発電量も増加していますがまだまだ十分とは言えないでしょう。

さて、一般の建築物であれば3,000平方メートル以上、(学校については8,000平方メートル以上)の建築物であれば「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」(通称:ビル管法)に基づいて国家資格である建築物衛生管理技術者(通称、ビル管理者)による定期的な環境衛生検査を実施しなければならない、と規定されています。

学校保健安全法第4条では、学校の設置者は、その設置する学校の児童生徒及び職員の心身の健康の保持増進を図るため、当該学校の施設並びに管理運営体制の整備充実のその他の必要な措置を講ずるよう努めるものとする。同第6条第1項に、文部科学大臣は学校では換気、採光、照明、保温、清潔保持、その他環境衛生に係る事項について、児童生徒等及び職員の健康を保護するうえで維持されることが望ましい基準を定めるものとする。第2項、学校設置者は学校環境衛生基準に照らしてその設置する学校の適切な環境の維持に努めなければならない。第3項、校長は学校環境衛生基準に照らし、学校の環境衛生に関し、適性を欠く事項があると認めた場合には遅滞なく、その改善のために必要な措置を講じ、または当該措置を講ずることができないときには、当該学校の設置者に対し、その旨を申し出るものとする。とあり、学校での適正な環境衛生を維持するよう義務付けています。

そして、学校保健安全法施行規則、第1条には法第6条に規定する学校環境衛生は、毎学年定期的に法第6条に規定する学校環境衛生基準に基づき行わなければならない。となっています。

学校保健安全法という学校での児童生徒及び職員の健康の保持増進や安全の確保を定めた法律が存在しているということは、その必要性や重要度が高いからにはかなりません。以上のような理由から、児童生徒が一日の多くの時間を過ごす学校の環境衛生を適切に保つことの重要性をご理解していただけたと思います。

さて、学校環境衛生基準にはいろいろな検査項目が定められています。

教室等の環境では「換気及び保温等」、「採光及び照明」、「騒音」についての基準が定められています。換気では二酸化炭素濃度を測定することで適切な環境であるかどうかを判断します。学校環境衛生基準では1,500ppm以下であることが望ましい、となっています。確かに2,000ppmでも3,000ppmであっても緊急的に体の不調が出るようなことはまずありません。通常大気中の酸素濃度は約210ppm、これに対して二酸化炭素濃度は年々増加しています。30年ほど前までは約350ppmであった二酸化炭素濃度は現在では約400ppmにまで上昇しています。しかし、緊急的な症状が出なければ基準を逸脱していても良いのでしょうか？ 学校では教室という閉鎖された空間で児童生徒が勉強をしています。脳をフル回転させて勉強しています。脳が活発に活動するためには大量の酸素が必要です。二酸化炭素濃度が上昇するということは酸素が消費されていることになりますから、教室内の酸素含有量は低下し、十分な酸素を吸入し難くなり、脳は酸欠傾向になります。脳が酸欠状態になると少しでも多くの酸素を取り入れようとして「あくび」が出ます。決して授業がつまらないのではなく、脳を活性化させるためのあくびです。そんな時には窓を大きく開けて新鮮な空気

に入れ替えてみませんか？きつと、シャキッとすることでしょう。また、新鮮な空気との入れ替えはインフルエンザやノロウイルス等の感染症対策にもなります。現在、空気の除菌をうたっている製品が出回っているようですが、医薬品ではないために100%信頼を置けるものではありません。換気に勝る予防法はありません。

保温についてですが、教室の温度は極端な低温や高温では心身に対するストレスになります。基準に適合した適切な温度・湿度を保持することで快適な学習環境が維持できます。

「採光及び照明」では明るさやまぶしさについての基準が定められています。明るさについてですが、暗いのはもちろんですが、明かるすぎる状態も眼に負担がかかりますし、黒板とノートや教科書を交互に見る授業では黒板面と机上の照度の差が大きすぎると眼に対する負担は大きくなります。

騒音についての検査ではその意義について疑問を抱かれる関係者もいます。学校環境衛生基準に騒音レベル検査が取り入れられているのは、児童生徒が教師の話を十分に聞き取れることを目的とし、教師の声と騒音レベルに一定の差があるように定められています。騒音というと自動車とか工場等の外部騒音を思い浮かべがちですが、学校内での内部騒音が問題となることもあり、児童生徒の適正な学習を確保するために基準が設けられています。

このように、学校環境衛生検査基準は児童生徒等及び職員の心身の健康の保持増進を図るための重要な目的があります。学校保健に関わる者は、何故この環境衛生基準が定められているのかという基本・原則を思い起こし、適切な学校環境衛生基準を維持していく義務があると思います。

成長期のからだや下着について 簡単に指導できる「無料DVD」配布中。



視聴時間：約10分

下着教室ツボミスクールで講師が話している内容をまとめた「テキストとDVDのセット」を無料提供しています。DVDは約10分で、視聴するだけでも知識が得られる内容です。宿泊学習前のご指導などにぜひお役立てください。

※お申し込みは随時受け付けています。



お申し込みはホームページから！

※スマートフォンからご利用いただけます。 [ツボミスクール](#) [検索](#)



ツボミスクールの養護教諭コースが 全国へ無料出張いたします！

「関東」と「関西」を中心に出張しておりますが、参加者が養護教諭や学校関係者に限り全国へ無料出張いたします。研究会や講演会のひとつとして、ぜひお役立てください。

- コース：養護教諭コース
- 人数：30名程度よりお受けいたします
- 会場：公民館や学校などの公的施設をご手配ください
- 費用：無料（講師料・交通費は不要です）
- 期間：年中（6、7月を除く）

詳しい内容やお申し込みは下記までお問い合わせください。

ツボミスクール運営事務局

TEL 0120-203-248 [受付時間] 平日9:30～17:00

平成28年度 学校健康づくり啓発ポスターコンクール

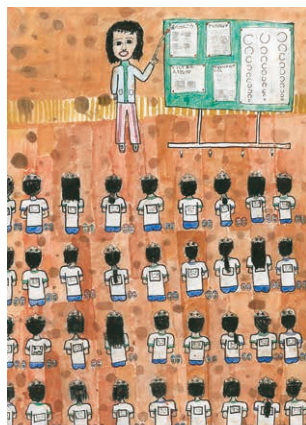
ポスター採用審査

最終選考作品

今年度のコンクールでは、全国から1,429点（前回1,865点）の力作、秀作が集まりました。その中から本会の学校健康づくり啓発用ポスターに採用する作品を決める審査で最終選考まで残った作品をご紹介します。（ポスター採用作品：1ページ掲載）



栃木県宇都宮市立姿川第二小学校
2年 黒子 真名 さん



鹿児島県始良市立松原なぎさ小学校
3年 中尾 文乃 さん



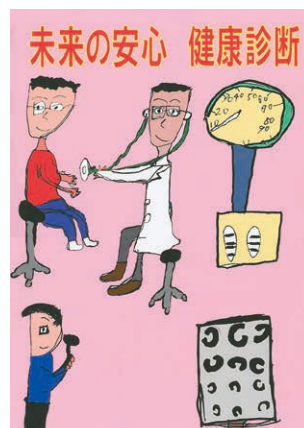
埼玉県所沢市立南陵中学校
2年 清水 周 さん



横浜国立大学教育人間科学部附属
特別支援学校
1年 金子 もも さん



宮崎県立佐土原高等学校
2年 柴田 美澄 さん



群馬県立龔学校
1年 酒井 蒼司 さん

平成29年度全国及び各地区ブロック大会日程（平成29年2月15日現在）

※日程、開催地はあくまで予定です。主催者の都合で変更することがあります。

開催日	大会名	会 場	開催地
平成29年10月 1日(日)	第65回北海道学校保健研究大会（日高）大会	（仮称）新ひだか町総合市民センター / 愛称：はまなす（旧三石地区）	新ひだか町
8月 9日(水) 10日(木)	第50回東北学校保健大会	秋田市文化会館	秋田県秋田市
8月10日(木)	第68回関東甲信越静学校保健大会	コラニー文化ホール／山梨県立図書館	山梨県甲府市
8月27日(日)	第52回北陸三県学校保健研究協議会	輪島市文化会館	石川県輪島市
10月22日(日)	第38回東海ブロック学校保健研究大会	海津市文化センター	岐阜県海津市
8月 3日(木)	第39回近畿学校保健連絡協議会	ならまちセンターホール	奈良県奈良市
8月17日(木)	第62回中国地区学校保健研究協議大会	岡山コンベンションセンター／岡山衛生会館	岡山県岡山市
隔年開催	第21回四国学校保健研究大会	（次年度高知県予定）	
平成29年 8月 7日(月) 8日(火)	第16回九州地区健康教育研究大会	佐賀文化会館	佐賀県佐賀市
5月21日(日)	第68回指定都市学校保健協議会	ホテル・アゴラーリジェンシー堺	堺市
7月28日(金)	第60回全国学校保健主事研究大会	高知県民文化ホール	高知県
4月20日(木)	平成29年度 全国学校保健会運営担当者会議	日本消防会館 大会議室	東京都港区
10月12日(木) 13日(金)	平成29年度 学校環境衛生・薬事衛生研究協議会	ホテルメトロポリタン盛岡ニューウィング	岩手県
10月26日(木) 27日(金)	第81回全国学校歯科保健研究大会	リンクステーションホール青森	青森県青森市
11月16日(木) 17日(金)	平成29年度 全国学校保健・安全研究大会	三重県総合文化センター	三重県津市
11月16日(木)	第67回全国学校歯科医協議会	三重県総合文化センター 他	三重県津市
11月16日(木)	第67回全国学校薬剤師大会	三重県総合文化センター 他	三重県津市
11月17日(金)	平成29年度 全国学校保健会中央大会	三重県総合文化センター	三重県津市
11月18日(土)	第48回全国学校保健・学校医大会	三重県総合文化センター 他	三重県津市
平成30年 1月27日(土)	平成29年度 全国健康づくり推進学校表彰式	日本医師会館（予定）	東京都文京区
2月	平成29年度 事業報告会	未定	東京都港区
2月	平成29年度 全国養護教諭連絡協議会 第23回研究協議会	メルパルクホール（予定）	東京都港区

成長曲線研修会・準備委員会と成長曲線に基づく健康管理Q&Aについて

成長曲線研修会・準備委員会 委員長 村田 光範

文部科学省が平成26年4月30日付けで通知した「学校保健安全法施行規則の一部改正等について（通知）」の中で「改正に係る留意事項」として、「1.身長曲線・体重曲線の活用による発育の評価について」の中で「座高の検査を必須項目から削除したことに伴い、児童生徒等の発育を評価する上で、身長曲線・体重曲線等を積極的に活用することが重要となること。」としたが、すべての児童生徒について身長・体重成長曲線と肥満度曲線を描くという作業を手描きで行うことは不可能である。

そこで、平成27年8月に出版された「児童生徒等の健康診断マニュアル 平成27年度改訂」に同梱されて全国の国公立小・中・高校に配布された身長・体重成長曲線と肥満度曲線作成プログラムである「子供の健康管理」を使って行う児童生徒の具体的な健康管理について、日本学校保健会は「成長曲線研修会・準備委員会」を立ち上げて、基礎的な問題と臨床的な問題とについて養護教諭を中心としたQ&Aの作成と全国規模での研修会を開催することを決めた。この委員会は文部省補助事業として行われ、委員は小児科医4名、小学校養護教諭2名で構成され、助言として文部科学省より岩崎信子健康教育調査官を招聘した。

1. Q&Aについて

養護教諭を主な対象として、学校健康診断に身長・体重成長曲線と肥満度曲線を導入することの意義と事後措置を含めた実践的な対応について分かりやすいQ&Aを作成し、これを日本学校保健会のホームページに掲載することを目的に活動した。その結果は日本学校保健会のホームページからポータルサイトを開いて「テーマ別関連ページ」をクリックして、「保健管理」の項目から「その他」を選択すると、「Q&A成長曲線に基づく児童生徒の健康管理」を選択すると内容を知ることができる。健康管理編（1成長曲線を描くことの意義、2成長曲線と肥満度曲線の活用、3事後指導）と操作編に分かれて「成長曲線に基づく児童生徒の健康管理」についてわかりやすい解説がなされている。

2. 研修会の開催

「成長曲線に基づく児童生徒の健康管理」に関する研修会の開催については長崎県、仙台市、富山県、神奈川県、高知県、兵庫県の各教育委員会が中心になってこの7月14日から12月6日にかけて、養護教諭、保健主事、管理職、学校医、行政担当者、その他学校教育関係者を対象に行われた。今回の研修会の特色は成長曲線にかかわる基本的な問題に加えて、各地域の小児の成長について詳しい小児科医師が成長曲線にかかわる臨床的な講演を行ったことである。

この研修会についてはアンケート結果の一部を表に示した。

表 研修会での講義がとくに参考になったと答えた人数とその割合

開催地	参加人数	講義1	講義2
長 崎 県	282名	222名 88.1%	228名 90.5%
富 山 県	149名	94名 70.1%	131名 97.8%
神奈川県	267名	126名 51.2%	244名 99.2%
仙 台 市	381名	251名 70.3%	345名 96.6%
高 知 県	170名	127名 81.9%	145名 93.5%
兵 庫 県	256名	181名 85.4%	201名 94.8%
合 計	1,505名	1,001名 73.8%	1,294名 95.4%

3. 今後の予定とまとめ

今年度は身長・体重成長曲線と肥満度曲線を作成するプログラムの活用に重点を置いて活動をしたので、来年度の活動としては、養護教諭をはじめ、一般教員、学校医、保護者などを対象にして、身長・体重成長曲線の異常を示した児童生徒に対する事後措置を中心に解説したマニュアルづくりと専門的な対応が必要な場合の医療機関についての体制づくりを日本小児内分科学会、日本成長学会、財団法人成長協会などと協力して整備してゆく予定にしている。

学校における水泳プールの保健衛生管理改訂

法政大学スポーツ健康学部 教授 鬼頭 英明

はじめに

「学校における水泳プールの保健衛生管理」は、平成11年3月に初版が作成された。平成21年4月には「学校保健安全法」が施行され、「学校環境衛生基準」が文部科学省告示として法制化された。プールの管理については、他の法令が見当たらないことから、学校環境衛生基準に基づく学校プールの衛生管理の意義は大きい。(公財)日本学校保健会では、これに合わせて本書の内容の見直しを行い、5月に改訂版が発行され現在に至っている。法制化してから7年以上の時間が経過する一方で、プールに関わる事故等の発生もあり、さらにはその後の医学的知見の進展等も踏まえる必要が生じた。一方、近年の市町村合併により、学校におけるプールの使用状況にも変化が生じている可能性も想定される。本書の使命は、現状に即したより現場で即戦力となることが期待されていることから、今回は以上の視点を踏まえ見直しを図ることとした。

本委員会では、学校におけるプールの衛生管理状況の変化を把握した上で、課題に対して最新の知見を踏まえ、学校におけるプールの衛生管理者等が活用できる資料の提供を目指した。委員会は、研究者、医師会、学校薬剤師会、プール関係者、教育委員会、学校関係者で構成されており、冊子の改訂に当たっては、それぞれの立場から現場のニーズに対応できるように意識して作成に当たった。

1. 見直しの概要

文部科学省は、近々学校環境衛生基準の見直しを予定しているとのことである。本冊子は、学校環境衛生基準に準拠して幅広く学校現場で生かしていただく必要があることから、時代遅れにならないよう当委員会においても学校におけるプールに関する基準項目の改正状況を踏まえた上で、本冊子を作成する必要があることはいうまでもない。

本冊子の見直しにあたっては、より学校現場で使いやすいものとするため、内容の整理を行うこと、従来版においてもQ & A方式を随所に入れているが、さらに見やすくかつ分かりやすい内容とすることに配慮した。第1章「学校における水泳プール」の内容の見直しを図り、「学校における水泳プー

ルの保健衛生管理の必要性」と改題し、これまでに発生した水泳プールに係る事故例や管理上の課題を挙げるとともに、水泳プールの安全・衛生管理の必要性、法令上の管理の考え方、管理組織及び緊急対策についてまとめることとした。従って、現行版の第6章「組織活動」については第1章に包含するとともに、子どもの健康管理にも大きく関わることから第2章でも触れている。第4章については、「水泳プールの水質管理」、第5章については「水泳プールの施設・設備と管理」として整理した。なお、水質管理や施設設備については、やや専門的な内容も含まれているが、本マニュアルは学校薬剤師も対象者となることから水泳プールの管理上重要な内容については専門的な内容についても解説している。平成27年度に実施した調査結果から浮かび上がった課題については、どのように対応するのが望ましいかについて、本文中とリンクできるよう記述に配慮した。

以下に改正版の目次の章立てを示す。

- 第1章 学校における水泳プールの保健衛生管理の必要性
 - 第2章 水泳のための健康管理
 - 第3章 水泳プールに関連する疾病
 - 第4章 水泳プールの水質管理
 - 第5章 水泳プールの施設・設備と管理
- 「学校における水泳プールの保健衛生管理に関する調査」の結果報告書
- 次に、各章立ての内容について概要を記す。

2. 学校における水泳プールの保健衛生管理の必要性

学校における水泳プールの現状として、調査結果から浮かび上がった水泳プールが抱える課題及び事故例について取り上げ、保健衛生管理の必要性を再認識できるようにした。

特に、安全管理の必要性、衛生管理の必要性、プール水の浄化・消毒の必要性について解説するとともに、法令上の管理の考え方、管理組織の必要性、組織活動の進め方、緊急対策要項の設置について取り上げた。

3. 水泳のための健康管理

水泳授業の開始前に確認しておくべき事項、健康観察、水泳時の健康管理について整理した。プー

ル健康調査カード、指導開始前のチェックリスト、指導後のチェックリストを掲載するとともに、水泳中の健康観察のポイントについて解説した。

4. 水泳プールに関連する疾病

水泳プールに関連する疾病については、一般的に児童生徒の健康状態で注意が必要な事項について取り上げた。また、注意すべき状態として、水泳と眼の健康、水泳と耳の健康、水泳と鼻の健康、水泳と皮膚の健康、及び水泳とその他の病気に分け、Q & A 形式でわかりやすくコンパクトに解説することとした。ゴーグルの使用、水道水で洗眼すること、中耳炎の時の水泳の可否、水いぼ（伝染性軟属腫）がある時の水泳の可否、アタマジラミがある時の水泳の可否、日焼け止めクリームの使用の可否などについては、現行の冊子の中でもすでに取り上げているが、改めて、科学的根拠や学校現場の実情を踏まえ、十分な議論を重ねた上で解説している。また、救急時の手当について、水泳時の耳のけが、鼻のけが、熱中症対策の留意点、プールサイドに準備すべき救急用具、筋肉けいれん時の対応、強い日差しへの配慮、低体温症に対する応急手当、プールで溺れている児童生徒を発見した場合の対処法、傷病者発生時における判断・行動チャートを掲載した。

5. 水泳プールの水質管理

学校における水泳プールの水質管理は、学校環境衛生基準に基づいて実施されなければならないが、ここでは特に水質管理について各基準項目が設定されている理由及び基準を守るための維持管理の方法について取り上げている。また、原則、腰洗い槽は入れ替え式のプールでの運用を前提とする理由、汚れの指標となる有機物量（過マンガン酸カリウム消費量）が基準値を超えた場合、大腸菌が検出された場合の対応について解説した。特に、塩素消毒の管理については、学校プール運営上極めて重要であることから、詳細に解説している。また、プール水の排水の際の留意点、スーパークロリネーションの意義、塩素剤の取扱について取り上げた。

6. 水泳プールの施設・設備と管理

学校環境衛生基準では、施設・設備と管理についても検査項目を規定している。水泳プールの管理にあたっては、水泳プール管理委員会などの名称で運営管理が進められると考えられる。その中でプール設備管理責任者はどのような管理をすべきか、また、水泳プールの管理に当たり、プール衛生管理日誌やプール浄化装置点検表の例を掲示し、学校現場のニーズに資するよう配慮した。

学校プールの調査結果から浮かび上がった事例

としては、凝集剤の誤った使用例、すなわち本務校におけるろ過装置の種類を知らないまま、凝集剤を使用している事例が25%弱あったことから、こうした点を改善する必要があることについて取り上げることとした。

シーズンオフ時にプールの水を張っておくことの必要性、長期間休止後のプール使用再開時の清掃方法、地域住民へのプール開放時の管理上の留意点についてQ & A 形式で取り上げている。

プールの維持管理についてはプール本体の維持管理、給排水施設の維持管理、循環ろ過装置と塩素消毒装置の維持管理、洗浄設備の維持管理等に分けて記述している。また日常点検や管理、循環ろ過装置の点検方法、循環ポンプ停止時のトラブル対処法、シーズンオフ時プールの保守、プール水が濁ったり、着色したりした時の対処法、屋内プールの管理、水道が給水制限された際の対応について言及した。

7. 学校における水泳プールに関するアンケート調査の概要

プール水の通常の排水先が把握されていないケース、ろ過装置を使用している学校においてろ過装置の構造が把握されていないケースが見られた。また、シャワーの浴び方について指導していない学校は校種が上がるにつれて増え、高等学校では11%であった。主たるプールの運営責任者は体育主任、保健体育科教諭であり、ついで校長、教頭、主幹教諭であった。プール関連薬品の管理者は体育主任、保健体育科教諭が最も多かった。塩素剤、凝集剤等のプール関連薬品を取り間違えないための措置や工夫の実施について、行っていないと回答した割合は学校種が上がるにつれて増え、高等学校では約52%となった。

入泳の可否の判断に際し学校医等と連携をとっているかどうかについては、とっていると回答した割合は概ね53～68%であった。なお、調査結果の詳細は冊子をご覧ください。

8. (公社) 日本プールアメニティ協会主催のプール施設管理士講習会について

従来より、(公社) 日本プールアメニティ協会では、学校プールの管理に資するよう学校プール管理者講習会を実施してきたが、本年度はプール施設管理士講習会を東京と大阪を会場として年4回実施することとされている。講習会は、学校プールを含むプール施設を実際に維持管理される実務者を対象として開催されることから、学校薬剤師を始めとする学校関係者におかれても参加し、具体的、実用的な知識の習得をめざしていただくことが、事故のない学校プールの運営につながるものと期待される。

平成28年度公益財団法人日本学校保健会賛助会員〈各五十音順〉

平成29年2月15日現在

本年度の本会賛助会員にご加入いただき、誠にありがとうございました。

法人賛助会員

アサヒビール株式会社様
味の素株式会社様
江崎グリコ株式会社様
オムロンヘルスケア株式会社様
花王株式会社様
株式会社内田洋行様
株式会社オフテクス様
株式会社サンギ様
株式会社シード様
株式会社スミノエ様
株式会社メニコン様
株式会社龍角散様
株式会社ロッテ様
株式会社ワコール様
クラシエフーズ株式会社様
サノフィ株式会社様
サントリー食品・インターナショナル株式会社様

JCR ファーマ株式会社様
ジェンザイム・ジャパン株式会社様
シキボウ株式会社様
四国化成工業株式会社様
ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社
ビジョンケアカンパニー様
第一三共株式会社様
中外製薬株式会社様
東ソー株式会社様
日産化学工業株式会社様
日本アルコン株式会社様
日本コカ・コーラ株式会社様
日本曹達株式会社様
ペルノ・リカール・ジャパン株式会社様
HOYA 株式会社様
マルホ株式会社様
森永製菓株式会社様
ライオン株式会社様

個人会員

石川 優子様	内藤 昭三様
井原 貴重様	野溝 正志様
宇津見 義一様	林 和彦様
梅田 郁子様	平山 宗宏様
小澤 孝好様	福下 公子様
柏井 眞理子様	真栄田 篤彦様
上迫田 健二様	松下 卓郎様
菊池 信太郎様	松田 峻一良様
菅尾 光子様	道永 麻里様
高石 昌弘様	宮浦 徹様
高野 繁様	村松 章伊様
土器屋 美貴子様	山岸 直矢様
戸田 芳雄様	吉田 博様
他 匿名5名の皆様	

団体賛助会員

一般財団法人電気安全環境研究所様
一般社団法人日本コンタクトレンズ協会様

公益社団法人日本眼科医会様
公益財団法人精神・神経科学
振興財団様

学校保健用品等賛助会員

一般財団法人東京顕微鏡院様
一般社団法人こども・すこやか研究所様
エクセル株式会社様
エタニ産業株式会社様
河合薬業株式会社様
株式会社朝日エル様
株式会社アルティナ様
株式会社アルボース様
株式会社映学社様
株式会社EDUCOM様
株式会社奥村様
株式会社学校健診情報センター様
株式会社カズサ様
株式会社環境衛生様

株式会社三和製作所様
株式会社少年写真新聞社様
株式会社ビーカブー様
株式会社ビッグウイング様
株式会社ミニマム様
株式会社両備システムイノベーションズ様
サラヤ株式会社様
勝美印刷株式会社様
スズキ教育ソフト株式会社様
ダノンジャパン株式会社様
南海化学株式会社様
ムンディファーマ株式会社様
山本光学株式会社様
リオンテック株式会社様

公益財団法人日本学校保健会
平成29年度賛助会員ご加入のお願い
学校保健をささえるご支援を！

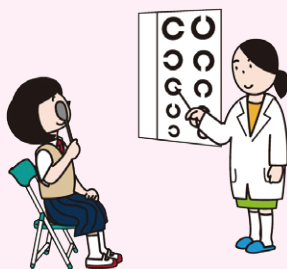
本会では、本会の目的、事業に賛同される方々の賛助会員へのご加入をお願いしています。本会の賛助会員制度は、子どもたちのために事業活動が続ける本会の貴重な財務基盤の一つです。ご加入のお申込み・詳細は、本会のHPまたはお電話にてお問い合わせください。

※本会の賛助会費は、特定公益増進法人制度による会費の税制上の優遇処置を受けることができます。

詳細：http://www.hokenkai.or.jp
問合せ：Tel 03-3501-0968



健康診断の手順を説明した動画の配信がスタートします



日本学校保健会では『児童生徒等の健康診断マニュアル平成27年度改訂』を基盤に、学校での健康診断の手順や留意点をまとめた動画を作成しました。動画は3月末にポータルサイト内で公開予定です。

平成29年度からの学校での定期健康診断にぜひお役立てください。

主な視聴の対象は、経験年数の浅い養護教諭や一般教諭、新任となられた学校医の先生方向けとなっています。



虎ノ門 (143)

うさぎ追いし

以前に本欄で取り上げた「ノーベル賞」(会報315号)の中で取り上げた山極勝三郎博士に関して、再び取り上げたい。山極博士は、1863年に長野県上田市に上田藩士の三男として生まれ、東京大学医学部を首席で卒業し、32歳の若さで東京帝国大学医学部病理学教授に就任する。山極博士は、東北帝国大学からの特別研究生の市川厚一氏(後に北海道帝国大学教授)とともにウサギの耳にコールドタールを塗り続け世界初の化学的刺激による人工発がん成功した。この業績は多くの病理学の成書に記載され、こんにち発がん理論の展開に大きく学術的貢献をしている。ノーベル医学・生理学賞に4回もノミネートされながら種々の理由で受賞にいたらず、「幻のノーベル賞」としても知られている。

このたび、この山極博士を主人公として日本映画『うさぎ追いし』が製作され、公開された。東京では有楽町でしか上映されていなかったのに、1月の成人式祝日によりやくみることができた。山極博士を演じるのは、いまやその姿をメディアで見ない日

はない遠藤憲一である。山極博士の幼少期から青年期、そしてまさにウサギとともにあった東大での研究生活、そして知られざる私生活を描ききった力作であった。遠藤憲一の演技は山極博士の生涯を体現したかのごとき抑制の効いた演技で、生き映しのようにさえ思えた。人工がん発がんの際に詠んだ「癌出来つ 意気昂然と 二歩三歩」(曲川:山極博士の俳号)は、以前の本欄で触れた。今回の劇中で湿気と暑さでウサギが大量に死んでしまったとき、市川厚一氏が「先生、ウサギが死んでしまいました」と叫ぶように伝えたとき、苦渋を噛みながらも「市川君、君は科学者だろう。何匹死んだのかをきちんと数えなければだめだろう」と諭したシーンと、持病の結核の状態が思わしくないのにもかかわらず研究室へ行くとする山極博士を妻が「命より大事なもののなんてありません」といって引き留めようとした時に遠藤扮する山極博士が「あるんだ、あるんだよ」と静かに決然といったシーンが強く印象に残った。「癌出来つ」の句はこれらの科学者精神があつてこそ初めてその意味を理解できると感じた。「がん教育」が本格的に始まる今年、改めて感じ入ることができた映画と山極博士の生涯であった。

(編集委員 瀧澤 利行)

編 集 後 記

第9期中央教育審議会の委員に日本学校保健会会長 横倉義武が選出されました(文部科学省 平成29年2月15日発令)。本誌がお手元に届くころにはすでにご存知の方もいらっしゃるかもしれません。

ご案内の通り、日本学校保健会会長は日本医師会会長と兼務しております。一部新聞等のメディアにおいては日本医師会会長が任命されたと報じられておりますが、あくまでも日本学校保健会会長として

就任いたします。就任後の対応事務は日本学校保健会が行います。日本学校保健会会長が日本の教育の方向性を決める重要な審議会の委員に任命されたことは各関係団体の皆様のご尽力あつてのことでございます。関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

本誌編集後の発令のため、巻末でのご報告となりましたこととお詫び申し上げます。次号において改めてご紹介いたします。(編集委員長 弓倉 整)



安易なカラーコンタクトレンズの使用には注意!! ルールをまとめたリーフレットができました。

目の健康やコンタクトレンズに関する正しい知識の指導などにぜひお役立てください。
学校保健ポータルサイトからダウンロードできます。
<http://www.gakkohoken.jp/CLguide>

ACUVUE®
BRAND CONTACT LENSES



コンタクトレンズの正しい使用と、眼科での定期検査を。
<http://acuvue.jp/goeyedoctor/>

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケアカンパニー
東京都千代田区西神田3丁目5番2号 ©J&J KK 2017



コンタクトレンズは、
眼科を受診して、
正しくお使いください。

コンタクトレンズは正しい使い方を守って、快適に使いましょう。

コンタクトレンズのことなら [コンタクトレンズ百科事典](#) [Q検索](#) www.menicon.co.jp/whats/encyclo/



●赤玉



日本学校保健会の推薦商品

透明度を高めます。(No.2) 藻を防ぎます。(No.5)

プール浄化剤 アクアピル

※無料サンプルを提供します。



〒152-0022 東京都目黒区柿の木坂1-5-1
エタニ産業株式会社 TEL.03-5701-7272

●青玉



(株)内田洋行の通信販売 通販 **UCHIDAS** ウチダス

保健UCHIDAS

2017版 発刊しました!

UCHIDAS vol.11カタログより
保健室でお使いになる商品、
お役立ち商品を集めて別冊化いたしました!



200ページ
約2,200
アイテム掲載!

UCHIDAS
キャラクター
ビペット

保健UCHIDAS
新キャラクター
キューちゃん

※保健UCHIDASはUCHIDAS販売店よりお届けしております。
未着の場合は事務ご担当者または販売店にご確認ください。



保健UCHIDASは
保健室用品に
特化したカタログ
です。

保健UCHIDAS
キャラクター
アヤコ先生

養護の先生が
よくお使いになる商品ジャンル

保健室	洗面所	ティッシュペーパー・タオル
トイレ用品	飲料・雑貨	キッチン用品

お役立ち商品を集めました!
『事務用品・その他』

- スタンプ・シール ●清掃用品
- ファイル・文具 ●環境測定...など

保健UCHIDASには他にもたくさんのお役立ち商品を掲載しています!

ウチダスのしくみについて

・学校様よりご注文 (FAX・WEB) でいただいたご注文は、当社倉庫より配送されます。

・ご注文商品の代金は最寄りの担当販売店へお支払いいただきます。



ウチダスは「地域有力販売店」と「内田洋行」の共同事業です。

お問い合わせはこちら

株式会社内田洋行／教育機器事業部 ウチダス事業グループ 受付時間
ウチダスお問い合わせセンター **TEL 0120-757-969** 午前9時～午後5時30分
(土・日・祝日を除く)

www.uchidas.net

送料 無料 FAX AM 5:00 インターネットショップ PM 5:30
※北海道、九州、福島、(本州・四国の一部)は翌々日以降 土・日・祝日を除く